

2014年3月26日

学長 尾池和夫

瓜生山学園理事会・評議員会 挨拶

雨の中、皆さま方、多数のご出席、まことにありがとうございます。ご挨拶をかねて瓜生山学園の近況を少しお話しします。

今年の京都造形芸術大学大学院学位授与式・芸術学部卒業式は、3月15日に行われ、芸術専攻（博士課程）5名、芸術文化研究専攻（修士課程）および芸術表現専攻（修士課程）合計74名、学士の学位が芸術学部637名に授与されました。

1994年度に初めて、135名が卒業してから合計8546名が京都造形芸術大学を卒業しました。また、1997年度に16名の修士から合計748名の修士が本学を修了し、2002年度に1名の博士から合計47名の博士が本学で学位を得ました。内訳は課程博士43名、論文博士4名であります。

また、京都造形芸術大学大学院芸術研究科〔通信教育〕を修了した74名、芸術学部通信教育部を卒業した412名に、それぞれ修士と学士の学位が、同日の午後、授与されました。通信教育部の修士は2008年度から合計392名、学士が2001年度からで、合計4800名となりました。

こども芸術大学では、3月8日に卒業式が行われ、14組の親子に卒業証書が授与されました。

京都芸術デザイン専門学校の卒業式は、3月9日に行われ、175名の卒業生を送り出しました。京都文化日本語学校の卒業式も同じ日に行われ、132名が卒業しました。

また、連携している東北芸術工科大学では、3月21日、博士1名、修士39名、学士456名に学位が授与され、私も祝辞を述べさせていただきました。

こちらの卒業式には、東北芸術工科大学の根岸吉太郎学長がたいへんこころのこもった御祝辞をいただきました。

学位授与に先立って、それぞれの卒業展が開催されました。

通学の卒業展を見に来られた方は、瓜生山に1万2786名、高原学舎に1931名でした。蒼山会の50名近い方も最終日に熱心にご覧になりました。うれしかったのは、今年は多くの作者が作品の前に立って、自分の制作の過程や思いを語ってくれたことです。指導の先生方も多くおられて、積極的に作品の佳さを教えて下さいました。大学院や各学科の制作記録、論文集などが発行されていますが、とりわけ美術工芸学科では、卒業展の開催に間に合うように、416ページに及ぶカタログを発行し、それを手にして卒業展を参観することができたということが注目されました。

通信教育部の卒業展には、3844名の来場者、京都みやこめっせでの専門学校の卒業作品展には、798名の来場者がありました。

卒業展を飾った作品群は、すでに分厚い記録として印刷され、皆さまにお届けできました。また、通信教育部のウェブサイトには歴代の卒業生の作品が掲載されています。

学園の人たちの活躍で、さまざまの行事が行われています。

産学連携プロジェクトでは、二条城ライトアップです。現在開催中で、4月13日までです。ぜひご覧ください。

4月2日からは、エントランスラウンジ展です。今、準備が行われています。

また、今日から恒例の春の顔見世展が開催されます。

学園には、さまざまの話題があります。

環境デザイン学科の坂茂教授が、米国・プリツカー賞（The Pritzker Architecture Prize）の2014年の受賞者に決定しました。日本人の同賞の受賞は、1979年に賞が創設されて以来7人目です。授賞式はオランダのアムステルダム国立美術館（Rijksmuseum）で6月13日に予定されています。

学生編集部員23名が、エディター、ライター、フォトグラファー、デザイナーを務

める大学広報誌『瓜生通信』の4月号（4月3日発行予定）で、坂茂教授の特集をお届けいたします。

情報デザイン学科卒業生、森田修平さんの作品『九十九（つくも）』（英名"Possessions"）が、第86回米国アカデミー賞短編アニメーション部門（Short Film (Animated)）にノミネートされました。

第64回ベルリン国際映画祭で、本学映画学科出身の黒木華（くろき・はる）さんが、出演した山田洋次監督の映画「小さいうち」で、銀熊（SilbernerBar）賞の最優秀女優賞を受賞しました。黒木華さんには、またNHKのドラマでお目にかかれるのが楽しみです。

他にもまだまだ多くの方たちの活躍があり、そのたびにメディアの取材にコメントを用意するのが忙しく、でも嬉しいこの頃でした。

これからも、本学園のさまざまの活動にご注目いただきながら、皆さまのご指導とご支援をお願いして、私のご挨拶といたします。

ありがとうございました。

尾池和夫